

## 事務事業評価表

## ○基礎情報

課名		衛生課	作成責任者
施策目標	26.27	健康で衛生的な生活環境を守る 食の安全・安心を確保する	橋爪 廣美

常勤職員		常勤職員以外			総従事者
管理職	左記以外	再任用短時間	臨時職員	非常勤嘱託職員	総人工
1 人	17 人	0 人	5 人	2 人	18.25 人

時間外勤務時間	
総時間	一人あたり月平均
1,501 時間	7.4 時間

施策指標名	4次実施計画の 現状値	目標値 (R2年度)	実績値		
			H29年度	H30年度	R元年度
環境衛生施設の監視率	41.8%	40.0%	38.0%	42.9%	36.9%
狂犬病予防注射の接種率	81.0%	83.0%	81.7%	80.0%	81.1%
収去(抜き取り)検査の件数	120件	120件	120件	120件	120件
大規模製造・調理施設に対する監視数	128件	128件	141件	136件	159件

(施策のねらい)	
1	環境衛生の向上
2	医薬品等の使用の適正化
3	動物の愛護、保護管理の推進
4	0
5	0
6	0
7	0
8	0

(評価の見方) **S** 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果があがった **A** 事業の指標は達成できなかったが、成果はあがった **B** 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果は今後見込める  
**C** 事業の指標は達成できなかったが、成果は今後見込める **D** 事業の指標を概ね達成したが、成果は見込めない **E** 事業の指標を達成できず、成果も見込めない  
**Z** 未着手事業(計画していたが未実施に終わった) **実績なし** 事業実施の体制は整えていたが、実績がなかった(実施計画期間中で当該年度は実施予定のないものを含む)

## 2 政策的事業の実績(令和元年度)

事務事業の取組結果と成果(効果) (Plan / Do)											Check		Action	
No.	事務事業 (第4次実施計画)	施策	従事者数	会計区分	H30予算(円) H30決算(円)	R元予算(円) R元決算(円)	何・誰に対して どう働きかけた結果 どうなったか(生ま (対象) (手段・方法) れた成果・効果)	事務事業の指標	R元目標値	R元実績値	評価	取組時間	事務改善	休・廃止
1	動物愛護管理事業	3	1.28	一般	3,985,000 3,605,933	4,952,000 4,689,933	動物の愛護と適正な飼養について、飼い主の理解と関心を深め、マナー等の啓発を推進することで快適な市民の生活環境が保全された。	犬猫の苦情受付件数	110件	65件	A	変動なし		
2	害虫等駆除事務事業	1	0.80	一般	1,959,000 1,661,004	1,954,000 1,091,620	危険害虫(スズメバチ)から市民の安全を確保し、台風等による浸水被害による衛生害虫の発生を防止することで市民の生活環境が保全された。	市民相談への対応率	100%	100%	S	変動なし		
3	食品衛生知識の普及啓発	1	2.23	一般	123,000 121,682	229,030 252,137	食品衛生責任者等を対象にした講習会、茅ヶ崎地区食品衛生協会と食中毒予防キャンペーン等を共催することで、食品衛生知識を普及させた。	食品衛生責任者講習会開催回数	12回	21回	S	変動なし		
合計					R元予算(円) R元決算(円)	7,135,030 6,033,690								

3 実施計画事業(政策的事業(政策的事業のない課かい是一般管理事務等))の総括評価

人工・事務事業費・事務事業指標達成度の結果にかかる分析(Check) / 今後の展望(Action)	
<p>衛生課の令和元年度の事務事業数は11事業あり、うち政策的事業は3事業である。政策的事業の評価は、「S」が2事業、「A」が1事業で、それぞれ成果をあげることができた。</p> <p>特に「食品衛生知識の普及啓発」については、事務事業の目標値を大きく上回るとともに、広報紙や市ホームページ、ツイッター等の各種広報媒体を活用し、適切なタイミングで随時発信し、効果的な周知に努めた。今後も引き続き、衛生監視員の資質向上を積極的に図り、食品衛生法のさらなる周知など、最新かつ必要な情報の発信に努める。その他の2事業についても、市民からの情報提供・要望等を適確に把握し、適切かつ速やかな対応をし、動物愛護管理の普及、市民の安全安心の確保等を図っていく。</p> <p>職員の時間外勤務は、総時間は1,501時間、一人あたりの月平均時間は7.4時間であり、前年度と比較して総時間は301時間、一人あたりの月平均時間は1.4時間減少した。その理由として、各職員が積極的なコミュニケーションを心がけることで、業務の状況を共有し、業務量の平準化が図れたためと考えられる。</p>	

4 Actionにチェックの入った今年度「事務改善」を行う事業

No.	事務事業(事業がない場合は－)	事務改善の内容
－	－	－

5 Actionにチェックの入った今年度「休・廃止」を検討する事業

No.	事務事業(検討事業がない場合は－)	休・廃止検討の理由(1事業も検討できない場合はその理由を記載)
－	－	①「動物愛護管理事業」 犬の逸走・咬傷事故、猫の生活被害等を減らすため、マナー啓発、飼養指導等の業務は必要性が高いと判断したため。 ②「害虫等駆除事務事業」 スズメバチの被害等により人命が失われるなどの可能性があることから、必要性が高いと判断したため。 ③「食品衛生知識の普及啓発」 食中毒の予防など市民の健康に直結する内容であり、必要性が高いと判断したため。